

特定非営利活動法人

AMDA
国際医療情報
センター

2025年度 活動報告
2026年度 事業計画

目次

- 02 理事長あいさつ
- 03 2025年度事業報告
- 07 2026年度事業計画
- 11 みなさまからのご支援
- 12 ミッション・ビジョン・バリュー
- 13 活動計算書・貸借対照表

おかげさまで、AMDA国際医療情報センターが活動を始めから丸35年になりました。絶え間ない活動ができたことに対して、この組織の内外から応援してくださったすべての皆様に心より、感謝御礼申し上げます。

日本に在住する外国人の数は初めて400万人に迫っており、外国人観光客の増加と併せて、言葉や習慣が異なる人々を我が国にどのように受け入れていくのかが一層、重要になっていると思います。

「平等」の意味をよく噛みしめ、外国人への差別は許されるわけありませんが、一方では日本人側から見て逆差別と思ってしまうようなことがないように、施策や言動には熟慮が必要でありましょう。

とくに付け加えたいことはAIの急速な進歩により、希少言語の通訳翻訳までもが手持ちのスマホで驚くほど簡単に

瞬時にできてしまうようになったことです。

これには有事の責任の問題等、指摘はされていますが、手軽さから圧倒的な広がりを見せていると日常の診療から感じます。実際、有料の電話通訳翻訳サービスは利用者数の減少に直面しており、いずれ、経営上の問題にも発展することでしょう。ただし、無料であるこれらのセンターのサービス利用には大きな影響はないかもしれません。センターが開設以来36年間、多くの医療機関を始めとする組織や個人からの信頼を得て、積み上げてきた無料の多言語での医療・医事相談は今後も頼られる存在となることでしょう。皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2026年5月吉日
理事長 小林 米幸

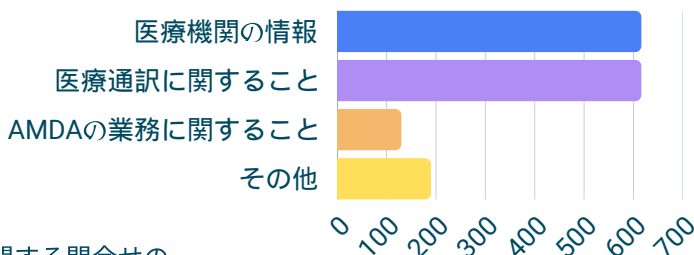
理事長 あいづ

相談実績



電話件数 **1,457** 件
(前年比1.2倍)

相談内容



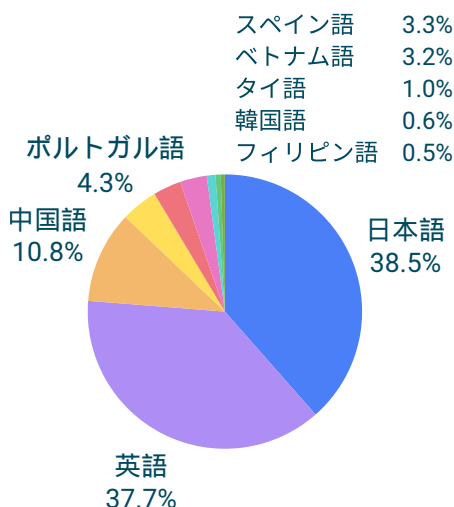
医療通訳に関する問合せの多さに比べ、実際の通訳につながる割合は少ない。三者通話による予約支援を開始したことも影響しているとみられる

医療通訳についての問い合わせ数が医療機関の情報提供数に迫る

対応言語

日本語での対応が最多となった

医療通訳についての問い合わせの多さが、日本語での問い合わせの多さに繋がっているとみられる



三者通話による予約支援



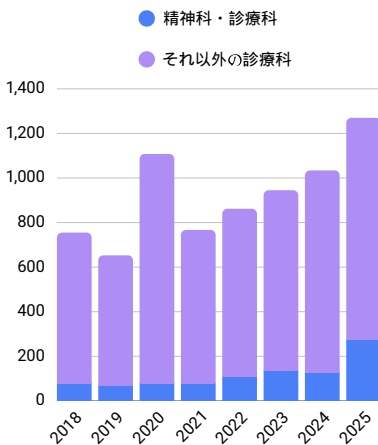
三者通話による
支援件数

67 件

予約支援の需要が
あることが判明

外国語対応可能な医師が在籍していても、受付・事務手続・看護場面等で言語的不安が残ることで受診につながりにくいケースがある。このため、診察場面に限定しない言語支援を開始したところ、実際の受診成立につながる事例が見られた。

相談時の診療科



精神科の相談は増加の一途

日本語が不得手な外国人にとって、精神科・心療内科の受診は、身体疾患以上に高い障壁を伴う。症状や感情を言語化する難しさに加え、医療機関側においても、母語以外での精神科診療や治療効果に不安や慎重な姿勢が見られる場合があるためである。当センターでは、こうした課題を踏まえ、外国人の精神科受診支援を重点分野の一つとして取り組んでいきたい。

通 訳 実 績

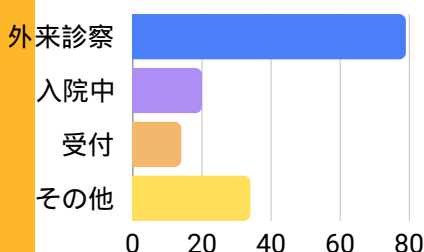


通訳件数 **132** 件
(前年比1.6倍)



総通訳時間 約 **64** 時間
(1件あたり平均約30分)

利用場面



外来診察場面での通訳が最多

通訳支援の半数以上が外来診療で実施され、外国人患者が日常的な医療にアクセスするために医療通訳を必要とすることがあると示唆される。

通訳診療科

精神科・心療内科の通訳に特徴

精神科・心療内科の通訳利用が多い背景には、継続通院患者による反復利用があると考えられる。内科・外科などの身体科診療では、急性疾患に対する数回の受診で終診となるケースも多い一方、精神科・心療内科では継続的な診療関係が必要となる場合が多く、通訳支援も長期的に求められる傾向がみられた。

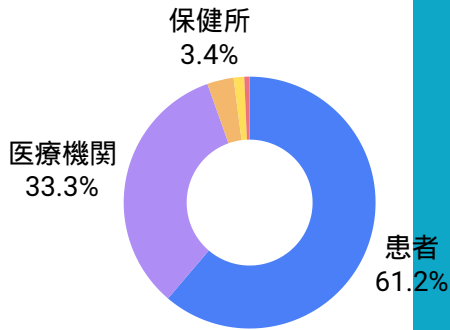


患者から依頼できる 遠隔医療通訳

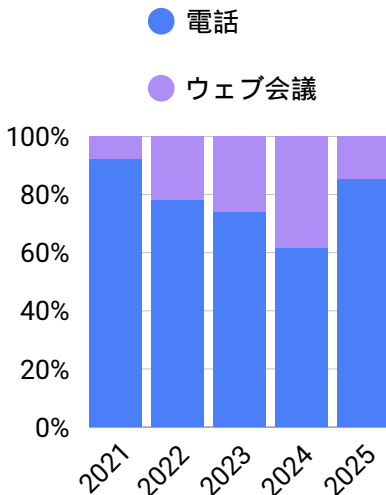
通訳依頼元

患者からの依頼が6割

通訳依頼元は患者本人からが約6割を占めた。2024年12月までは患者本人からの直接依頼を受け付けていなかったが、運用変更後は患者からの利用が増加し、通訳件数増加の一因となったと考えられる。



通訳手段



患者からの依頼を受けていることで電話通訳件数が増加

2021～2024年度にかけては、医療機関との連携によるWeb会議通訳の利用が経時的に増加していた。一方、2025年度は患者本人からの通訳依頼受付を開始したことにより、電話通訳件数が増加した。現在、患者本人からの依頼についてはWeb会議通訳には対応しておらず、この運用体制の違いが通訳手段の構成変化に影響したと考えられる。

その他の事業

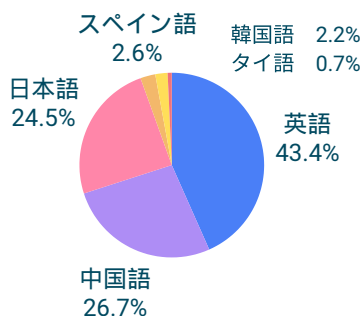
受託事業

東京都保健医療情報センターひまわり外国語対応室



電話件数 **12,928** 件

言語の内訳



神奈川県大和市 翻訳受託

予防接種予診票ほか 13種類 1～4言語

協議会・検討会委員

東京都 外国人患者への医療等に関する協議会

神奈川県 外国人医療推進検討会議会

レセプション

英国大使館 New Years Reception

講義・講演

福山市医師会看護専門学校
朝日医療大学校
大阪医療センター附属岡山看護助産学校

NPO法人東海ヘルプライン東海 つなぎ方研究会

「夜間・休日ワンストップ窓口の運用等・希少言語に対応した
遠隔通訳サービスの提供」第3回説明会

東京都 令和7年度 医療機関における外国人患者対応支援研修

当センターについて掲載依頼をいただいた自治体

世田谷区 Life in Setagaya 2025
茅ヶ崎市 市民便利帳
彦根市 生活ガイド
刈谷市 外国人のための困りごと相談つなぎ方ガイドブック
姫路市 令和7年度生活ガイドブック
那覇市 ウェブサイト
西宮市 ゲートキーパー手帳
東広島市 ウェブサイト
福岡よかトピア国際交流財団 ウェブサイト
静岡県国際交流協会 ウェブサイト
焼津市 外国語版広報やいづ
高知県立病院 院内ポスター掲示
郡山市 ウェブサイト
鹿児島市国際交流財団 ウェブサイト

センター内研修

日本の精神保健医療サービス ～外国人への支援の視点から～
東京科学大学精神保健看護学分野 谷口 麻希 氏

新人研修

韓国語	5名
タイ語	3名
英語	2名
スペイン語	1名
相談サポート	1名
ボランティアスタッフ	2名

センター内研修

精神疾患について

当センター タイ語相談員
横山 万知子 氏

循環器・血管疾患について

～エコノミークラス症候群を中心に～

当センター理事
はとりクリニック院長
羽鳥 裕 氏

フリーダイヤル導入

LINE通話導入

相談手段の多様化によるアクセシビリティ向上

当センターでは、言語や制度の違いによって医療へのアクセスに不安を抱える外国人住民が、必要なときに安心して相談できる環境づくりを進めています。その一環として、フリーダイヤルおよびLINE通話を導入し、相談手段の多様化を図ります。

外国人住民の中には、通話料金の負担を心配する方や、日本の電話回線を契約していない方、日常的に通話アプリを主要な連絡手段として利用している方も少なくありません。こうした状況において、相談方法が限定されていること自体が支援への障壁となる場合があります。

フリーダイヤルの導入により、相談者は通話料金を気にすることなく相談できるようになります。また、アプリ通話に対応することで、利用者が普段使い慣れたツールから気軽に相談できる環境を整えます。

これらの取り組みにより、相談者の通信環境や経済状況に左右されない相談体制を構築し、困りごとや健康上の不安を抱えた方が早期に支援へつながることを目指します。誰もが必要ときに適切な医療や支援へアクセスできる社会の実現に向けて、相談窓口のアクセシビリティ向上に取り組んでいきます。

持続可能な運営に向けた翻訳事業の検討

近年、医療機関や行政機関、支援団体において、多言語での情報提供や文書整備のニーズが高まっています。当センターはこれまで、医療・保健分野を中心に多言語コミュニケーションを支援してきた経験を有しており、その知見を翻訳サービスとして提供することで、地域の多文化共生の推進に貢献できると考えています。

また、有償事業の展開は、相談事業や通訳支援事業を安定的に継続していくための自主財源の確保にもつながります。今後はニーズ調査や事業スキームの検討を進めながら、公益性と持続可能性の両立を目指します。

指標整備による事業の質と成果の向上

匿名相談を中心とする当センターでは、相談後の受診状況を継続的に追跡することは困難です。そのため、相談件数だけでなく、平均相談時間や対応言語数、相談内容の複雑性、関係機関との調整負荷など、事業の実態をより正確に把握できる指標の整備に取り組みます。

これらの指標を活用することで、相談ニーズの変化や業務負荷の状況を客観的に把握し、人材配置や研修、業務改善に活かしていきます。また、事業の実態や社会的ニーズを支援者や関係機関に分かりやすく示すことで、透明性と説明責任の向上にもつながります。

外国人の医療アクセスに関する実態調査の実施

外国人患者の受入れ経験を持つ医療機関や地域の医療機関を対象に、外国人診療における課題や支援ニーズについて把握するとともに、外国人住民に対しても医療機関の利用経験や受診時の困りごとに関する聞き取り・アンケート調査を行います。

医療機関側と利用者側の双方の視点から現状を分析することで、言語面だけでなく、制度理解や情報アクセスなど、外国人の医療アクセスを阻害する要因を明らかにします。

調査結果は、当センターの相談支援の質向上に活用するとともに、関係機関との共有を通じて、外国人が安心して医療を受けられる地域づくりに役立てていきます。

賛助会員・個人からのご支援

賛助会員 38名

個人からのご支援 44名

企業・団体様からのご支援

一般社団法人 日本・ラテンアメリカ婦人協会 様
フタバ電子株式会社 様

クラウドファンディング支援額（キャンペーン時）

 **Syncable** 509,197円

ソフトバンクつながる募金

 つながる募金 24,000円

賛助会員を募集しています

みなさまからのご支援どうぞよろしくお願いいたします。

会員の種類	口数	金額
個人会員	1口	6,000円
団体会員	1口	20,000円

みなさまからのご支援

ミッション

AMDAの存在意義

言語や制度の壁により医療から取り残されがちな外国人・非日本語話者が、必要な医療に適切につながるまでを支える、信頼できる多言語医療相談窓口である。

ビジョン

AMDAの目指す未来像

すべての人が、言語や立場にかかわらず必要な医療へアクセスできる社会を実現する。

バリュー

AMDAの行動指針

1. すべての相談者の尊厳を尊重する
2. 情報提供にとどまらず、課題の根本的な解決を目指す
3. 支援が難しいケースほど、あきらめずに向き合う
4. 医療機関・行政・患者をつなぐ中立的な立場を守る

活動計算書

令和 7年 4月 1日 から令和 8年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人AMD A国際医療情報センター

(単位：円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	140,000		
賛助会員受取会費	168,000	308,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	1,844,109		
受取募金	38,925	1,883,034	
3. 事業収益			
事業収益	56,204,850	56,204,850	
4. その他収益			
受取利息	52,240		
雑収益	8,910	61,150	
経常収益計			58,457,034
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	40,572,723		
法定福利費	599,210		
通勤費	5,188,450		
福利厚生費	5,000		
人件費計	46,365,383		
(2) その他経費			
諸謝金	22,274		
印刷製本費	80,402		
旅費交通費	1,842		
通信運搬費	530,592		
事務・消耗品費	84,771		
消耗什器備品費	294,050		
水道光熱費	98,166		
賃借料	2,045,190		
保険料	600		
諸会費	35,000		
租税公課	2,558,700		
支払手数料	633		
雑費	959,219		
その他経費計	6,711,439		
事業費計		53,076,822	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	1,742,023		
通勤費	139,014		
人件費計	1,881,037		
(2) その他経費			
報酬費	1,493,600		
租税公課	7,989		
その他経費計	1,501,589		
管理費計		3,382,626	
経常費用計			56,459,448
当期経常増減額			1,997,586
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			1,997,586
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			1,927,586
前期繰越正味財産額			47,700,113
次期繰越正味財産額			49,627,699

貸借対照表

令和 8年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人AMD A国際医療情報センター

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	48,598,197		
未収金	5,368,189		
前払費用	150,550		
流動資産合計		54,116,936	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
電話加入権	555,536		
無形固定資産計	555,536		
(3) 投資その他の資産			
敷金	420,000		
投資その他の資産計	420,000		
固定資産合計		975,536	
資産合計			55,092,472
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	4,046,403		
未払消費税等	1,318,600		
未払法人税等	70,000		
預り金	29,770		
流動負債合計		5,464,773	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			5,464,773
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		47,700,113	
当期正味財産増減額		1,927,586	
正味財産合計			49,627,699
負債及び正味財産合計			55,092,472

多言語電話医療相談

平日 10:00～16:00

多言語遠隔医療通訳

平日 10:00～15:00（最終受付）

電話またはWEB会議システムを使用します

相談・通訳料は無料です

祝日と12/29～1/3はお休みです

0120-339-266

多言語対応・フリーダイヤル

(03-6233-9266)

（フリーダイヤルがつかない場合）

090-3359-8324

事務局（通訳予約・業務問い合わせ等）

月	火	水	木	金
にほんご	にほんご	にほんご	にほんご	にほんご
英語	英語	英語	英語	英語
韓国語	中国語	スペイン語	中国語	ポルトガル語
フィリピン語	タイ語			

ベトナム語は現在不定期です。ウェブサイトのカレンダーをご確認ください。
インドネシア語はご相談ください。

特定非営利活動法人
AMD A 国際医療セ
ンター

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目5-13
第3工新ビル901

<https://www.amdamedicalcenter.com/>

090-3359-8324